

2026年5月15日（金） 第1回 JAED 研究会（研究編）

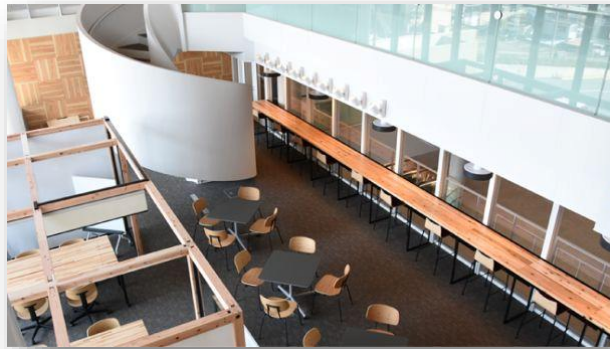
高等教育開発研究とはいかなるものか

実践を研究化する高等教育開発

京都橘大学 多田泰紘
tada-y@tachibana-u.ac.jp

自己紹介

- ・ 名前：多田泰紘（ただ やすひろ）
- ・ 所属：京都橘大学 経営学部／
教育開発・学習支援室
- ・ 業務：学習支援の企画・運営
ラーニングコモンズの企画・運営など
- ・ 専門：大学教育、学習環境、学習支援



「学習支援活動が学生スタッフの能力開発に与える効果」

- 対象：大学ラーニングコモンズの学生スタッフ
- 目的：学習支援活動への参加が、能力開発に与える効果を明らかにする。
- 方法：インタビューと質的分析（一部数値データ）
- 結果：多くの学生スタッフが傾聴力、伝達力、協働力の向上を実感。課題解決の実践。
- 考察：大学の学習支援に携わることで、学生の能力の向上が期待される



今日の内容

- 実践から研究のタネを見つける
 - 研究のタネから学術成果を得る
-

教育開発における実践研究とは

- 教育実践の改善を目的として、実践者自身または実践に関与する研究者が、実践を計画・実施・評価・省察し、その過程と成果を分析・考察する研究

(Schön, 1983; Hutchings & Shulman, 1999)

- 教育現場の課題解決や改善を目的として、実践者自身が省察的に教育活動を分析する研究

(佐藤, 1996 ; 秋田ほか, 2005)

今日の内容

- 実践から研究のタネを見つける
 - 研究のタネから学術成果を得る
-

実践から研究のタネを見つける

タネの発見につながる状況

- ① 珍しい／一般的な／後続的な事象
- ② どのように／なぜ／何が起きているのか？

「後続的な事象」とは、何らかの出来事があつた後に起こる事象です。
コロナ禍によるDX化の促進が典型例です。



実際の研究例

① 珍しい／一般的な／後続的な事象

- 学習支援に携わる学生スタッフ（LA）の配置に関して、多くの大学でLAの学びと成長をうたっている。

② どのように／なぜ／何が起きているのか？

- どのように学んでいる？ 何が成長している？

本研究では、大学ラーニングコモンズ等の学習空間における学習支援活動への参加が、学生スタッフの能力開発に与える効果を明らかにする。

(多田, 2024)

注意点

① 珍しい／一般的な／後続的な事象

★事象の珍しさや一般性の判断が必要

- 実践者としての経験を活用
- 先行研究の知見を収集（生成AIの利用可）

② どのように／なぜ／何が起きているのか？

★比較や検証が必要な問いは難易度が高い

- 誰に、どこで、いつ起きているか？【難しい】
 - どれだけの量／頻度／度合で起きているか？【難しい】
-

今日の内容

- 実践から研究のタネを見つける
- **研究のタネから学術成果を得る**

学術成果とは

研究活動によって生み出された知識、技術、知的財産、論文、書籍など

➡ 学術成果として認められるポイントのひとつに発展性（転移可能性）の問題がある。

学術成果を得るには

発展性（転移可能性）をもたせる

- ① 理論に関連付けて考察する
- ② 先行研究の結果と比較する
- ③ 作業仮説やツールを提案する

条件を整えたり、比較対象を設定できる場合、統計学的手法による一般化が可能です。



実際の研究例

① 理論に関連付けて考察する

学生スタッフは学習支援活動での自身の経験を振り返り、示唆を得て、知識やスキルを活動へ応用したり、現在の自身の能力の発揮を感じている。

⇒認知や動機づけ、行動のプロセス（Zimmerman & Bandura, 1994）や目標達成に向かう行動（Pintrich & Schunk, 2002）の自己調整学習が実現している。

（多田, 2024）

実際の研究例

② 先行研究の結果と比較する

寺田（2018）は研修を通じて学生スタッフの自己調整学習が促されることを報告している。

一方、本研究結果から、学習支援活動における利用学生への対応や他の学生スタッフとの交流による自己調整学習の進展が示唆された。

（多田, 2024）

注意点

① 理論に関連付けて考察する

② 先行研究の結果と比較する

★研究対象の定義（範囲）を適切に行う

- 先の事例で言えば、「大学の学習支援活動を行う学生スタッフ」に限定した考察を行う
- 定義を超えて言及しない（無理な一般化はしない）

③ 作業仮説やツールを提案する

★手法や結果の詳細な記述を行う

- 文脈や適応範囲を正しく読者に伝える
 - 後続研究による一般化に寄与する
-

● 実践から研究のタネを見つける

- ① 珍しい／一般的な／後続的な事象
- ② どのように／なぜ／何が起きているのか？

● 研究のタネから学術成果を得る

- ① 理論に関連付けて考察する
 - ② 先行研究の結果と比較する
 - ③ 作業仮説やツールを提案する
-

参考文献

- 秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学 編（2005）『教育研究のメソドロジ－学校参加型マインドへのいざない』 東京大学出版会
 - Hutchings, P., & Shulman, L. S. (1999). The scholarship of teaching: New elaborations, new developments. *Change: The Magazine of Higher Learning*, 31(5), pp.10–15.
 - 野村康（2017）『社会科学の考え方－認識論、リサーチ・デザイン、手法－』 名古屋大学出版会
 - 佐藤 学（1996）『教育方法学』 岩波書店
 - Schön, D. A. (1983). *The reflective practitioner: How professionals think in action*. New York: Basic Books.
 - 多田泰紘（2024）「学習支援活動が学生スタッフの能力開発に与える効果」 高等教育開発 3, pp.1-10.
-